

花の色は 移りにけりな
いたづらに
わが身世にふる
ながめせしまに

これやこの 行くも帰るも
別れては
知るも知らぬも
逢坂の関

天つ風 雲の通ひ路
吹き閉ぢよ
乙女の姿
しばしとどめむ